



としょかんぽう 第16号



図書館の思い出

浅尾 広良 (大阪大谷大学 学長)



私の人生の中で、「図書館の思い出」というと、大学在学中と大学院在学中のことを思い出す。高校時代は、友人が学校の後に県立図書館で勉強するというのを聞いて、試しに行ってみたことはあったが、人が沢山いる図書館では集中で

有り、東京の某私立大学の大学院を選んだ。そこは民俗学と文献学がさかんな大学で、大学院生も沢山いた。しかも、古い体質が残っていて、指導教授を頂点とした厳然としたヒエラルキーが出来上がっている世界だった。私は他大学から入学したので、勿論外様扱い、席は末席だった。それでも、より高度で専門的な勉強のできるのが嬉しかった。何より良かったのは、大学院生は閉架の書庫に自由に入れることだった。当時の図書館は閉架が一般的で、図書カードで本の所在を確かめ、見たい本は図書館員にお願いして書庫から持ってきてもらわねばならなかった。その点、書庫に入ると、自分で本の所在を確かめられて、実際に手に取って中身を確認できる。さらに、書庫にはキャレルと呼ばれる机もあった。私は、お気に入りのキャレルを設けて、いつまでも調べ物をした。周りには人もいないし、必要な本はほとんど揃っている。大学図書館を独り占めした気分だった。暗い書庫の奥のキャレルで、輪読や研究発表の準備をしたり、論文を書いたりした。

これから自分はどうなっていくのだろうか、調べ物をしている途中で、ふと将来に対する不安がよぎる。その一方で、限られた時間の中で、やるべきことを次々こなさなければならなかった。縁あって研究・教育職を^{なりわい}生業とすることができた。そんな私が「図書館」というと、将来に対してまったく五里霧中で、ひたすら書庫に籠もって調べ物をし、論文を書いていたあの頃の自分を思い出す。

きず、結局続かなかった。

大学に入って、専門の勉強をし出すと、「図書館に籠もる」という生活が始まった。日本国語大辞典や大漢和辞典を使うようになると、机が狭いとやりにくく、大きな机を独り占めし、本を重ね、本に埋もれながら課題や発表の準備にいそしんだ。だが、私の在学した大学は地方の国立大学で、図書の予算も足りず、読みたい専門書や雑誌はないものが多く、相互利用で複写を取り寄せたり、高い金を払って自分で揃えるしかなかった。ちょうど在学中に日本国語大辞典の縮刷版の刊行が始まり、月1冊ペースで買い求めた。中央公論社の『源氏物語大成』も復刊するというので、購入した。貧乏学生で図書にそれほどお金をまわせる余裕などなく、将来どうなるのか見通しが立っていたわけでもないのに、家を第二の図書館にすべく専門書を買って漁った。大学の図書館は、私が専門の道に入っていくきっかけとなった。

もう少し勉強したいという思いだけで、大学院に進学した。在学した大学には大学院がなかったので、他大学の大学院に進学するしかない。指導教授の勧めも



館蔵本解題その29 電子書籍「健康スポーツコレクション」

吉川眞由美 (人間社会学部スポーツ健康学科 教授)

超高齢化時代がすでに到来した現代社会において、今や健康は意識的に維持しなければならない課題となった。健康維持にとって、医療、食育ならびスポーツが大きく貢献する事実の啓発は必須であり、人々の健康の促進を正確に実現していく学術的な研究の積み重ねは、ますます重要なものとなっていく。

このたびの電子書籍版の「健康スポーツコレクション」は、スポーツ科学と医療、栄養学に関連する研究書に特に厚みを持たせた構成となっている資料コレクションである。

このコレクションは、国内外の様々なタイトルを

Maruzen eBook Library という共通のプラットフォームを通じて閲覧できるものであり、膨大かつ多岐にわたる学術情報の網羅的な参照を実現する。

スポーツは身心の健康のみならず社会にも大きく寄与する。スポーツを通じて社会の健康を実現していくために、身体機能や人間心理についての正しい理解、現行さらに最新医療の動向の把握、トレーニングやリハビリテーションの実践的な効果や留意点の総合的認識、あるいは健全な心身を支える栄養学的な見識の蓄積など、多くのテーマのもとに知見を高めていくために必要な情報源となるコレクションである。

電子書籍の閲覧の仕方(学内・学外から)

現在、図書館のゲートを入ってすぐの場所で電子書籍に関する掲示及びリーフレットの配布をしております。この機会に是非アクセスおよびリモートアクセス(学外から見るために必要な登録)をしてください。実習にもっていくには現物の本はおもくないですか？電子書籍ならスマホで見たいところがすぐに確認できますよ。



みなさんからのおすすめの1冊

『命売ります』三島由紀夫著 筑摩文庫

「自殺をしそくなった羽仁男の前には、なんだか空っぽな、素晴らしい自由な世界が開けた」。三島作品の中では非常に読みやすく、また娯楽作品としても優れている本作品は、今年一月にドラマ化を果たした。非常に軽い文体ではあるが、三島の心情や本心が投影されたかのような主人公設定、そして耽美的描写には目を見張るものがある。これを読まずしては「命」を、「三島」を語れない。(萱原 和歌子)



『スタンドバイミー』スティーヴン・キング著

新潮文庫【B933/KIN 別館2層 文庫コーナー】

原題は「The Body(死体)」。一人の作家が、少年の頃の冒険——列車にはねられた見知らぬ少年の死体を探しに行く——を回想しつつ、彼らの町・家庭・友情、そして仲間のその後を語るという内容だ。仮に一言でこの物語を言い表わすなら、それは「せつなさ」だ。無慈悲で理不尽なものに抗えない人間の無力さが哀しく、またいとおしい。

この作品は、映画と同盟の主題歌で有名になった。しかし、映画には、このあきらめにも似たせつなさやけだるさ、そしてアメリカの大地の匂いは少しも感じられない。もし映画はつまらなかったと思った人も、本にはきっと満足するにちがいない。(M. S)



『おろしや国酔夢譚』井上靖著 文春文庫

「おろしや国」とはロシアのことである。18世紀末、船頭大黒屋光太夫と十数名の乗員は、伊勢の国から江戸に向けて出港した。船は暴風雨に巻き込まれ破船する。数々の苦難の末に、カムチャッカ半島からシベリア大陸へ、そしてついにはロシアの帝都ペテルスブルクで女帝エカチェリーナ 2 世に謁見する。これはフィクションではない。歴史的事実である。帰国は叶うのか、祖国の土を踏めるのは何人か。光太夫のたぐいまれな行動力と、意志の力、女帝の前でも臆することなく堂々とふるまう胆力。日本人として知っておきたい物語である。(S.M)



『鳥が教えてくれた空』三宮麻由子著 集英社文庫

目の不自由な人は、どうやって空の高さを知るのだろう。そんなこと今まで考えたこともなかった。私たちは目が見えるから耳を澄まさない、目が見えるから触れることをしない。目が見えるということは、もしかしたら使える能力を使わないでいることかもしれない。空の高さは鳥の声が教えてくれる……野鳥によって開かれていく彼女の世界。このエッセイを読めば、彼女のように深くそして生き活きと世界を味わうことができるだろう。(M.O)



『青の炎』貴志祐介著 角川文庫

17才の少年が望んだもの。それは平凡な家庭とありふれた愛。ただ、それだけだった。愛する家族を守るため、完全犯罪を計画した高校生・榎森秀一の孤独な闘いを描いた倒叙ミステリーです。犯人視点だからこそ描かれる苦悩や焦り。怒りの炎で自分すらも燃やしてしまう、そんな主人公の姿に切なくなります。大学生という大人でもあり、子供でもある今だからこそ読みたい作品です。(宮本 晃司)



『かにみそ』倉狩聡著 KADOKAWA

【913.6/K 本館閲覧室 日本文学コーナー】

全てに無気力な「私」が拾った小さな「蟹」。何でも食べるそれは、頭が良く、なんと人の言葉も話すことができる。しかし、「蟹」は本当に何でも食べた。そう、「人」さえも。主人公は、そんな「蟹」と奇妙な友情を築いていく中で、ある事実に気づいてしまう……。

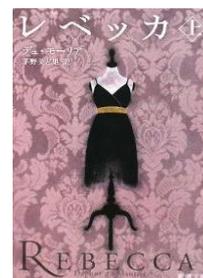


生きるとは、何か。あなたはこの物語を読むことでそれに直面する。そして、きっと、生命というものを強く認識せざるを得なくなるだろう。(Y.K)

『レベッカ』ダフネ・デュ・モーリア著 新潮文庫

【上: B933/DUM/1, 下: B933/DUM/2 別館2層】

デュ・モーリアは、人間の〈恐怖〉を、まとわりつくような文体で描く、20世紀イギリスの小説家である。映画「サイコ psycho」で有名なヒッチコックが、彼女の作品である「レベッカ」や「鳥」を映画化したのも頷ける。人間の劣等感や思い込みが作りあげていく恐怖の世界。もはや後戻りできないところまで行った時、真実の扉は開かれる。しかし、待っていたのは……。エンディングの意味を考えはじめると、主人公以外の人物の心の闇も見えてくる。深い味わいの作品である。(M.O)



『16歳の教科書 なぜ学び、何を学ぶか』7人の特別講義プロジェクト、モーニング編集部編著 講談社

【002/S/1 別館2層】

微分積分や三角関数、フランス皇帝の名前やアボガドロ定数……大人になってまったく使わない知識を、なぜ学ばなければならないのか、あるいは学ばせなければならないのか、誰もが一度は抱いたことのある疑問に答えをくれるのが、この本だ。知識や現象の裏に隠されている本当の学びを、ユニークな7人の特別講師が解き明かしてくれる、大学生必読の1冊である。(竹下 佑弥)



学生のみなさんにおすすめの1冊を紹介していただきました。図書館で所蔵しておりますので、是非読んでみてください。

原稿をお寄せくださったみなさん、ありがとうございました。

図書館でも館員のおすすめ本の紹介もしております。図書館ホームページをお見逃しなく、ご覧ください。



としょかん NEWS



グループ学習室リニューアルしました！

- ❖ ホワイトボードが増えました！ホワイトボードを動かすだけで、複数のグループが同時に利用できます。
 - ❖ 4名以上という制約の変更→2名以上になりました！
 - ❖ ゼミやグループでの自習・クラブのミーティングに使えるようになりました！
- 最大2時間まで！どんどん利用してください！！

申し込みはカウンターまで。

図書館のかみさまのアシスタントがお仕事中！

大阪大谷大学図書館の「おりーぶ」です。
10/14生まれのてんびん座。ヨロシクね。
おしごと・・・図書館でココロを育むお手伝い
夢・・・“図書館が好き！”とみんなに言ってもらいたいこと！
図書館で一生懸命お仕事をしています。見つけてくださいね！



受贈資料リスト(学内)受入順(2017年4月～2018年1月)

書名	編著者	発行者	請求記号	寄贈者(敬称略)
考古学・博物館学の風景：中村浩先生古稀記念論文集	中村浩先生古稀記念 論文集刊行会編	芙蓉書房出版	204/K	中村浩
建水分神社の文化財：千早赤阪村制施行50周年・郷土資料館会館20周年記念：千早赤阪村立郷土資料館平成18年度特別展	千早赤阪村 教育委員会編	千早赤阪村 教育委員会	216.36/T	馬部隆弘 他1冊
弥生の習俗と宗教	金関恕著	金関恕先生の米寿 をお祝いする会	210.2/K/2	竹谷俊夫
北方の覚醒、自意識と自然表	秋山聰[ほか]著	中央公論新社	702.3/S/5	小林典子
自然な英語を話すための日常英単語 1200	小倉雅明, John Flanagan 著	テイエス企画	834/0	小倉雅明 他1冊
これからの人権の学び：サポートブック	奈良人権 部落解放研究所編	奈良人権 部落解放研究所	379.8/K	松村徳子
西都原発掘 75周年展	宮崎県総合博物館編	宮崎県総合博物館	219.6/S	犬木努 他6冊
川合康三教授榮休記念文集	林宗正, 蔣寅[共]編	鳳凰出版社	920.4/K	稲垣裕史 他1冊
虐待ゼロのまちの地域養護活動：施設で暮らす子どもの「子育ての社会化」と旧沢内村	井上寿美, 笹倉千佳弘[共]編著	生活書院	369.4/I	井上寿美 同本1冊
龍野市史	龍野市史編纂 専門委員会編	龍野市	216.4/T/1	大阪大谷大学 歴史文化学科 他35冊

上記資料のほか、学内外より590冊の資料を受贈いたしました。心よりお礼申し上げます。